

予 算 要 求 資 料

令和2年度9月補正 支出科目 款：農林水産業費 項：畜産業費 目：家畜保健衛生費

事業名 **新** 野生いのししCSF検査機器整備事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 家畜防疫対策課 防疫対策係 電話番号：058-272-1111(内 2889)

E-mail：c11449@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 8,030千円(現計予算額：0千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	8,030	4,015	0	0	0	0	0	0	4,015
決定額	8,030	4,015	0	0	0	0	0	0	4,015

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

- 平成30年9月、国内で26年ぶりに発生したCSFは、野生いのししによるウイルス拡散がその要因のひとつとされ、平成31年1月に中央家畜保健衛生所に病性鑑定分室を整備し、野生いのししのCSF検査を実施している。
検査頭数3,513頭、うちCSF陽性1,200頭(R2年6月末時点)
- 令和元年8月、CSFにおける野生いのしし対策の先進地であるドイツ、リトアニアに職員を派遣した際、両国とも野生いのししに対するCSF検査は、リアルタイムPCRを導入しており、検査の省力化が図られていた。
- 同年9月に開催した第5回岐阜県豚コレラ有識者会議において、専門家から野生いのししの検査にはリアルタイムPCRの導入が必要であるとの提言があり、岐阜県から国に要望し6県において実証試験が実施された。
- 令和2年3月、国の「豚熱に関する特定家畜伝染病防疫指針」の留意事項が一部改正され、野生いのししの検査に用いる方法として、リアルタイムPCR検査が認められた。

(2) 事業内容

- ・野生いのししの CSF 検査の省力化を図るため、野生いのししの CSF 検査機器（リアルタイム PCR）を整備
- ・整備予定地：中央家畜保健衛生所病性鑑定分室
- ・整備内容：リアルタイム PCR 検査機器 1 台

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・県 1/2、国 1/2（消費・安全対策交付金）

(4) 類似事業の有無

- ・無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
備品購入費	8,030	リアルタイム PCR 検査機器
合計	8,030	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・「清流の国ぎふ」創生総合戦略（R1～5）
 - 2 健やかで安らかな地域づくり
 - (2)安らかに暮らせる地域
 - ④災害と危機事案に強い岐阜県づくり（CSF・ASF 対策の強化）

事業評価調査書（県単独補助金除く）

■ 新規要求事業

□ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

野生いのししの CSF 検査に用いる方法として、リアルタイム PCR 検査が認められたことから、検査の省力化を図るため、中央家畜保健衛生所病性鑑定分室にリアルタイム PCR 検査機器を整備する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 <small>(前々年度末時点)</small>	目標	達成率
	(H)	(H)	(H)	(H)	(R)	%
	(H)	(H)	(H)	(H)	(R)	%

○指標を設定することができない場合の理由

・検査機器を整備するものであり、指標の設定にはなじまない。

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	<p>岐阜県では CSF 検査が可能なリアルタイム PCR 検査機器を保有しておらず、野生いのししの CSF 検査の省力化を図るため、早急に機器の導入が必要である。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) —	/
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) —	/

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせる理由や期待する効果 など	